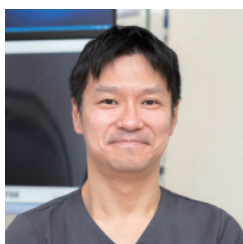


出血性十二指腸潰瘍に対する ピュアスタットを用いた止血



医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院
肝胆膵内科部長 内視鏡センター長 消化器病センター長

山本 龍一 先生

▶ 十二指腸潰瘍の静脈性出血に有用であった。

使用所感 ▶ 塗布後視野が良好であり、止血が得られているか、確認が良好であった。

▶ 病変部に停滞するので塗布後の止血効果、創傷治癒効果が期待できる。

診断 出血性十二指腸潰瘍

患者背景 82歳男性
慢性腎不全による維持透析状態

治療内容

1. 十二指腸球部後壁にA1 stageの潰瘍からの静脈性出血を確認した (Fig.1, 2)
2. Coagrasper (止血鉗子) (オリンパス) にて止血を行った (Fig.3)
3. 微小出血が持続するためピュアスタット3mLを塗布した (Fig.4)

術後経過 後出血や穿孔などの有害事象は生じなかった
翌日、食事を開始し、以後出血を認めていない

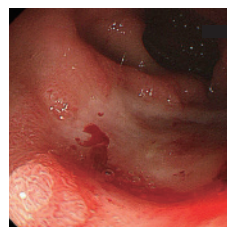


Fig1. 十二指腸球部潰瘍からの出血確認

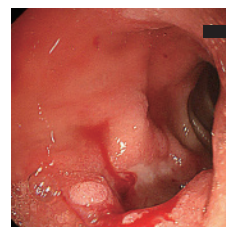


Fig2. 十二指腸球部潰瘍からの出血確認



Fig3. 止血を実施



Fig4. ピュアスタットの塗布

Tips

- ▶ 出血に備え、検査室内にピュアスタットを常備し、すぐに使用できる状態にしておく。
- ▶ 1mL、3mL製材の場合、カテーテル (ファインジェット (トップ)) 内に全てのピュアスタットが満たされてしまうため、塗布の際にはピュアスタットシリンジに空気を約5mL吸引し、親指で間欠的に押し、少しずつ塗布し、膨隆を形成するようにする。
- ▶ 塗布の際、病変部にカテーテル先端を軽く押し当てる。
- ▶ ピュアスタット塗布中は、送気送水は控える。



内視鏡センター スタッフの皆様